

# 第6回「青山歌壇」短歌受賞作品発表

最優秀賞

第6回「青山歌壇」短歌を、テーマ「希望」または自由題で募集し、初等部生から大学生・大学院生、青山学院関係者など499名の皆さまよりご応募いただきました。多数のご応募ありがとうございました。

## カニ達は大きな波でも生きてるよ海の不思議にむねが高鳴る

初等部5年 大塚周平

東日本大震災により、たくさんの方が津波にのまれて亡くなったことが心にあるのだろう。小さなカニの命から海の不思議を発見した、すばらしい作品。



**選者** 小島ゆかり  
第5回若山牧水賞、第40回追空賞等受賞、宮柊二に師事。産経新聞歌壇選者他。

## 仙台の七夕祭で揺れている八万羽の鶴希望に満ちる

中等部2年 佐々木花実

毎年恒例の仙台の七夕祭りですが、今年は東北地方を中心に大震災に見舞われ、いつも以上に深い祈りと願いをこめた多くの折鶴が見られたのでしよう。



**選者** 津金規雄  
高野公彦に師事。自身の歌集のほか、「牧水賞の歌人たち」(高野公彦)がある。「スズメ」選者他。

## 揺れる中姉のお腹を抱きしめた守りたかったまだ見ぬ希望

大学文学部日本文学科4年 宮田幸

あの大地震が来たとき、妊娠中のお姉さんを必死でかばおうとしたのです。夢中で守ろうとしたお腹の中の赤ちゃんを「まだ見ぬ希望」と名付けているところにも、心を打たれました。



**選者** 日置俊次  
朝日歌壇賞、第50回現代歌人協会賞等受賞。馬場あき子に師事。

理事長賞

乗馬して夏の野原が広がると青草なびく風のゆく道

初等部 4年 住友 里奈

馬上に凜として立つあなたの颯爽とした姿を思い浮かべます。風が頬に心地よいことでしょうか。広々とした草原にあなたの未来の豊かさを感じます。



半田 正夫

院長賞

復興の希望になれと凜と咲く気高く強い撫子の花

高等部 1年 中村 桜

楚楚と咲くかに見える撫子が、三・十一以後は気高く強いと映るところが印象的です。ナデシコジャパンの活躍を重ね合わせ、復興の希望として受止めさせられます。ともかく「凜と咲く」が秀逸！



山北 宣久

大学長賞

教室の壁一面に「希望」の字墨する子ども笑顔が滲む

大学文学部日本文学科3年 菊地 淳美

教室の壁いっぱい広がる子どもたちの未来への願い、悲しみと切ない思い。大震災に直面した子どもたちには、はじける笑顔とともに、そうした願いを失ってほしくないと思っています。



伊藤 定良  
※選出当時

女子短期大学長賞

すれ違ふ人の香水混ざり合ひ都会の風に漂ふこころ

女子短期大学国文学科2年 神保 悠

まだ大人ではない若者が、すれ違う人々の香水の香りの中に都会を感じ、その感覚の中でさまざま思う、不確かだがそれゆえに多くの世界を持つ様子が、好ましく伝わってきます。



谷本 信也

高等部長賞

球を追う彼の背中を追う私メガホンぎゅつとにぎりなおして

高等部 1年 小宮 恵里花

試合のスピード感、緊張感とハラハラしながら見ている作者の切ない気持ち、繰り返される「追う」という言葉や「ぎゅつと」に表わされています。観客と選手の手も伝わってくる歌です。



西川 良三

中等部長賞

先輩の上手な姿にあこがれて希望をむねにラケットを振る

中等部2年 久野 恵里香

上達することが、あこがれの先輩に近づける喜びであり希望なのでしょう。自分もいつかはとの思いを胸に、明るくはつらつと練習に励む作者の姿が目に見え、私にも希望が湧いてきました。



山本 与志春

初等部長賞

れいはいのステンドグラスにはんしゃするにじの光がとどけるきぼう

初等部3年 大鹿 颯大

毎日大切に守っている礼拝。一日のスタートを新鮮にとらえている作者。ステンドグラスを通して、神様のメッセージと共に、希望が虹の光となって届けられるというのが嬉しいですね。



島根 照夫

佳作

たて山でうえたよおいもどらっ花生大きくそだつてみんなのきぼう

初等部2年 芦田 開

空を見てみんなでいっばいわらったらたくさんふるよきぼうのひかり

初等部2年 鈴木 義宜

ひさい地に大きな希望あるように節電するたびおいのりしてる

初等部4年 岡田 理桜子

手のひらにせみのぬけがらのせてみたねばり強いな脚の強さが

初等部4年 新名 将也

よし行くぞ心にきめて飛びこんだあの夏の日の飛びこみ台で

初等部4年 山口 杏菜

九月になり気持ちを变えていききたいな新しい席になりました

初等部6年 佐久間 萌音

人間は心臓一つ目は二つだけど希望は無限に生まれる

中等部2年 黒田 純那

太陽の光そそぐよ被災地に冷えた心を溶かしていくよ

中等部2年 坂井 隆之

夏の日の全てをささげた強化練自信を胸にスタート台へ

中等部2年 中尾 光

疲れ果て満員電車降りて見る夕焼け空は明日への希望

中等部2年 細井 真菜

ぼくは待つ希望という名の流れ星まっくらな空にちいさな光

中等部2年 堀部 泰弘

将来の希望がいまだにわからないやりたいこともやりたくないことも

中等部3年 芦田 創

小さな子背伸びしながら募金して日本の心一つと感じる  
高等部1年 富井達己

七色の橋架ける為雨が降る私も待とうこの空の下で  
高等部1年 荒木那月

震災で広がっていく世界の輪いろんな国から希望が届く  
高等部1年 蕪木彩乃

木々の間で去年と同じセミの声繋がる命明日への希望  
高等部1年 鈴木瑛奈

幼い日「夕飯なあに？」と聞きながら確認してた母の優しさ  
大学文学部日本文学科3年 新沼唯

もう一度君の笑顔にふれたくてこの向日葵に希望をかける  
大学文学部日本文学科3年 古屋友莉

震災を越えて実った赤ザクロ自然は私に希望もくれた  
大学文学部日本文学科3年 茂木香奈枝

今までは自分の為に生きてきた今ならわかる希望のぬくもり  
大学総合文化政策学部3年 植村友哉

幼子の固くにぎりし手の中に希望を見たり塵ちりであっても  
校友・保護者 芦田美和子

節電と熱中症のはざまから見つけ出した日本の希望  
校友 鬼頭正子

君はもう学生じゃないと念を押すように届いた卒業アルバム  
校友 卷淵郁未

泥水の高さをしめす線の跡希望よ来いと願いつつ消す  
幼稚園主事 川島祥子

避難所で眠る我が子に頬よせて輝く命に力授かる  
青山学院関係者 渡辺志津子

東北の中学生の歌声は希望の光届けてくれた  
保護者 谷素子

## 総評

日置俊次

東日本大震災後の初めての青山歌壇は、「希望」というテーマにしようスタツフで決めました。「希望」という言葉は内容のないスローガンになりやすいので、実は歌にするのは難しいのです。しかし、想像以上に素晴らしい「希望」の歌が集まって皆で喜びました。最優秀賞では、海の波の下でも生きている蟹たちがもたらしてくれる希望、仙台の七夕祭の八万羽の折鶴が象徴する希望、地震の中で守ろうとした姉のお腹の子供という希

望が歌われており、感動しました。希望の背後には深い悲しみがあるものですね。院長賞の撫子の歌は、震災後の日本に希望を与えた女子サッカーの活躍をうまく取り入れています。理事長賞の乗馬の歌、高等部長賞の応援の歌には、「希望」という言葉は使われていませんが、「風のゆく道」や「彼の背中を追う」ところに希望が見えています。生きたる元気をもらえる短歌。青山歌壇へのさらなるご応募をお待ちしています。